

JSPS 研究拠点形成事業 第1回セミナーのお知らせ

気象学会の皆様

名古屋大学の甲斐憲次です。

このたび、JSPS 研究拠点形成事業（B. アジア・アフリカ学術基盤形成型）「アジアダストと環境レジームシフトに関する研究拠点の構築」の第1回セミナーを下記の通り開催する運びとなりましたので、ご案内します。ホームページは、次の通りです。

<http://env728.env.nagoya-u.ac.jp/asiandust-ERS/>

基調講演は、

- ・岩坂泰信名古屋大学名誉教授（滋賀県立大学）
- ・Yaping Shao 教授（ケルン大学）
- ・Yongxiang Hu 博士（NASA ラングレー研究センター）

にお願いしています。

3つのセッションで研究発表が行われます。

- R-1「発生源地域におけるアジアダストの発生機構と輸送」
- R-2「モンゴル草原における環境レジームシフトの解明」
- R-3「ダストとバイオエアロゾル」

8月4-5日および9日の研究発表は、自由に参加できます。興味をお持ちの方はぜひお越しください。準備の都合上、参加される方は、

甲斐研究室秘書：中島晶子

[<nakasima@info.human.nagoya-u.ac.jp>](mailto:nakasima@info.human.nagoya-u.ac.jp)

までご一報いただくと助かります。

よろしく願い申し上げます。

記

JSPS 研究拠点形成事業 第1回セミナー

「アジアダストと環境レジームシフトに関する研究拠点の構築」

趣旨：中緯度・偏西風帯にある我が国は、アジア大陸の風下側に位置し、アジアダストと関連する汚染物質・病原体の影響を受けます。モンゴル草原、ゴビ砂漠、およびタクラマカン砂漠は、アジアダストの主要な発生源です。砂漠に隣接するモンゴル草原は、多様な動植物が生息・分布し、バッファー（緩衝地帯）とも言えますが、環境保全のあり方によっては、砂漠化の危険性を秘めています。大規模なアジアダストは、モンゴル草原の

生態系にレジームシフトを引き起こします。本事業の目的は、セミナー・共同研究・研究交流を通じて、アジアダストと環境レジームシフトに関する研究拠点を構築することです。

期間： 2014年8月4-9日

場所： 名古屋大学環境総合館レクチャーホールほか

日程： 8月4日（月）

10:00-10:30 開会式

渡辺芳人 名古屋大学副総長挨拶（予定）

D. Batdorj モンゴル気象環境監視庁・部長

J. Huang 蘭州大学大気科学院・院長

甲斐憲次 名古屋大学教授・コーディネーター

10:30-12:00 基調講演

岩坂泰信 名古屋大学名誉教授（滋賀県立大学）

Yaping Shao 教授（ケルン大学）

Yongxiang Hu 博士（NASA ラングレー研究センター）

13:30-17:30 セッション R-1

「発生源地域におけるアジアダストの発生機構と輸送」

18:00-20:00 アイスブレーカー

8月5日（火）

9:00-12:00 セッション R-2

「モンゴル草原における環境レジームシフトの解明」

13:30-15:00 総合討論

共同研究の実施、若手研究者のトレーニングコース、

研究者交流の進め方、次期セミナーの開催地と時期

18:00-20:00 ディナー

8月6日（水） フィールドセミナー（上高地）

8月7日（木）-8日（金） 若手研究者のトレーニングコース

モンゴル、中国、日本の若手研究者を対象とする。

8月9日（土） セッション R3

「ダストとバイオエアロゾル」

甲斐憲次

〒464-8601 名古屋市千種区不老町 D2-1 (510)

名古屋大学・大学院環境学研究科・教授

環境総合館 726 室

TEL&FAX 052-789-4257 email: kai@info.human.nagoya-u.ac.jp

http://www7a.biglobe.ne.jp/~kai_lab_nagoya-u/index.htm